

令和7年度 伊勢市青少年相談センター運営協議会議事録（概要版）

令和7年6月2日（月）15：00～16：00

場所 小俣公民館2階会議室

◇参加者

- 出席委員：姫子松大輔委員、林珉山委員、横橋美保志委員、上田宏晃委員、西城宏樹委員、井上珠美委員、亀山知典委員、東端伸治委員、野北元昭委員、鈴木裕子委員（10名全員出席）
- 事務局：下村真司青少年相談センター所長（社会教育課長）、梅森裕青少年相談センター係長（主幹）、相談員 橘

1. 開会のことば

委員10名全員参加により運営協議会は成立する。

2. 青少年相談センター所長 あいさつ

3. 運営委員紹介

4. 会長あいさつ

5. 資料確認

6. 令和6年度 伊勢市青少年相談センター活動報告 事務局

事前配付資料「令和7年度伊勢市青少年相談センター概要と歩み」

質疑はなく承認された。

7. 現状の報告と問題点について

(1) 「少年非行等の状況」について （伊勢警察署生活安全課長 上田委員）

- ・ 県内少年検挙補導数が増加傾向、伊勢警察管内では1名増。補導人数について県内は増加しているが、伊勢警察署管内では若干の減少。内訳は深夜徘徊が多い。
- ・ 少年の自死が多いと感じている。今後、情報共有等をお願いしたい。
- ・ 中学生のSNS相談が多い。見知らぬ他人と交際、脅し等注意が必要。

(2) 「小中学校の課題等」について （学校教育課副参事 鈴木委員）

- ・ 人間関係や学習の不安など表面化してくる時期のため、各学校において個人面談などを実施している。
- ・ 県教委から配置のスクールカウンセラーだけでなく、市独自のスクールカウンセラーを小学校と中学校各2校に配置し、相談体制の充実をはかっている。
- ・ 児童虐待の報告も上がっているが、児童相談所やこども家庭相談係等関係機関と連携を進めている。
- ・ 教育委員会事務局として教員の働き方改革、業務見直しに取り組んでいる。

- (3) 「学校の現状」について (中学校長会代表 亀山委員)
- ・ 「伊勢市小中学校生徒指導協議会」において校種別に情報交換を行い、各学校の様子を聞きながら進めている。
 - ・ 反社会的な行動をとる生徒はいないが、一部学校の規則違反とか、学校生活になじめない子どもたちがいる。不登校となったり、他校の生徒とつながったりするので、関係機関等と連携しながら情報交換している。
- (4) 「高等学校の現状」について (南勢地区校長会代表 井上委員)
- ・ 南勢地区高等学校生徒指導連絡協議会は鳥羽・志摩・度会、私立高校も入って情報共有している。
 - ・ 県教育委員会の生徒指導課から現状や指導方法などの中に、全国的な動きとして生徒の自死の件がある、文部科学省資料によると令和5年6年と過去最多を更新している。保護者に向けて子どものSOSサインに気づき、対応方法を紹介するリーフレット資料を配付したりしている。教職員向け資料、生徒のサインの出し方の資料もあり、指導するよう依頼がある
 - ・ 不登校の生徒支援のなかで、昨年度から年間30日以上欠席でオンラインでも授業が受けられるよう学習の保障をしていくようにしている。
- (5) 「センターの活動」について (青少年相談センター 橘 相談員)
- ・ SNSやネットによるトラブルについて、本年11月2日に「伊勢市青少年育成市民会議」の事業で南勢志摩支部の合同研修会として兵庫県立大学の竹内和雄教授による「オンラインカジノ」や「闇バイト」などスマホ時代の課題や解決策について講演をお願いしている。
8. 令和7年度青少年相談センター活動方針(案)について (青少年相談センター 橘 相談員)
- ・ 令和5年から6年の三重県警少年課の『少年健全育成資料』を見ると令和4年から6年にかけて三重県内の少年非行状況で検挙、補導人数が増加し続けている。スマートフォンやSNS、ネットトラブルに関することについても子どもたちが「正しく怖がり、かしこく使う」ことが重要で単なる禁止では対応できない状況であることを認識し、アンテナを高くしていきたい。
 - ・ 「あゆみ」をはじめ、統計資料の作成と活用に合わせ、青少年相談センターの諸活動の見直しについても実施していきたい。
 - ・ 相談業務も含め、「スマイルいせ」、「こども家庭相談係」、「伊勢警察署」及び、「小中学校生徒指導協議会」等連携を継続していきたい。

質疑なく承認された。

9. その他

『青少年指導員の地区指導員』についての課題やその方向性等、情報共有した。

10. 閉会